

第8回市民交流会を終えて

大雪の中、沢山の方々にご参加いただき、第8回市民交流会を無事終える事ができました。参加いただいた方々に感謝するとともに、日ごろの活動がこれからもずっと続くことを願っております。さて、第8回市民交流会実行委員会も7月にスタートしましたが当初は意見交換が非常に多く、方向性を決めるのに多くの時間が必要になりました。

会議を重ねるうち次第に決まっていく具体的内容には、今までにないアイデアが多く出され、話し合い、実施する事が出来ました。

具体的には、「市内の高校、中学校、小学校にPR用ポスターを書いてもらう」「わらべ唄」をオープニングで子どもさんに披露してもらう」「展示もいいが、バザー的なものもあってはどうか」などなど、より市民の方々に参加していただくチャンスを多く取り入れた交流会ではなかったかと思えます。

話し合う内容も、今、本当に世間で話題になっている内容であり、そんなこともあって多くの方に参加いただけたと思っています。

大切なのは、「これから、なにをするか、どうやっていくか」です。

出来ることから自分達の力で実践する。そして、よりよい地域が育っていけばと願います。

そういう自分自身も今やっていることだけでなく、広範囲に目を向けて活動していきたいと思えます。

協力いただいた関係者の方々に感謝をします。

第8回市民交流会実行委員長 一見政幸

分科会に参加して

食の安全

私が子供の頃 よく両親から聞かされたのは

「合成着色料の入ってるものは食べないでね」

「そんなものばかり飲んできると骨が腐るよ」。

おばあちゃんから聞かされたのは

「スイカと天ぷらは一緒に食べたらあかんよ」

「うなぎと梅干はお腹壊すよ」。

そして今 私が子どもたちに言っているのは

「どこの国の食べ物か見てから食べるよ」

「賞味期限は大丈夫か？」。

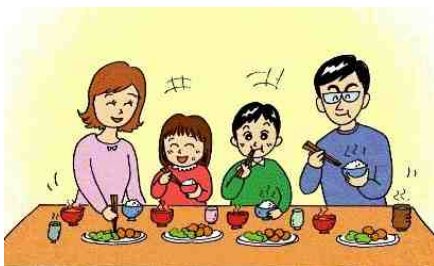
時代とともに変化していく 我々の食生活の中で安心・安全な食べ物を自分自身の力で判断し色々な意味での「チサン チショウ」を心がける。

この分科会では、今私たちに出来ることを発表しながら残留農薬や危険な食べ物の話だけではなく、家庭菜園や料理の楽しい話などとても充実した時間を過ごすことができました。

「毎日、家族の笑顔で食卓を囲むことが一番大切です」参加者の誰かが言ったこの言葉が、私には印象的でした。笑顔で食卓を囲むことは、今すぐ私たちに出来ることです。

参加者のみなさま ありがとうございます。

服部 亜樹



子どもを悪から守るには

分科会では、情報ツールとしての「ケータイ」に仕組まれたワナやトラブルについて、様々な事例を体験することから始まりました。参加者からは「怖いと思って避けることよりも、色々な事例を積極的に知ることが大切だ。」という意見がありました。学校では子どもたちが被害者にも、加害者にもならないように「情報モラル学習」として実践が始まりつつありますが、家庭でも「ケータイ」の正しい知識や使い方のルール、マナーなど話し合うことが大切です。

また、この分科会は中学生から大人まで参加して、内容の濃い話し合いが行われましたので、これで終わりとするのではなく、「メーリングリストを活用して意見交換や交流をしていこう。」ということで話がまとまりました。市民交流会をきっかけに大人も子どもも「ケータイ」を正しく、有効に活用していこうという試みがスタートしました。

伊藤幸一



「高齢者の安心とは」

この分科会を選んだのは、高齢者といわれる自分たち夫婦が生涯どうなるだろうかと不安からであった。分科会には、仕切るリーダーと進行をサポートするファシリテーター、ベテランの保健師さんを含む14名が揃った。初めての顔合わせで初めはぎこちなかったが、自己紹介や不安な事柄を話しているうちに共通することが多く、いつの間にか考えてもいなかった不安・悩みも出され、反対に同類感から自分の暗い気持ちが消えていくようであった。

特に多かったのは次の3項目

健康問題

長期間の認知症や寝たきりを避けたい...自分の苦しみのみならず、他人に迷惑をかけたくない。(夫・妻・父母・子どもなどで体験した人からの声である。)

医療問題

医療環境・技術の貧弱さ...内科医者がいない。緊急治療も市外が多いなど

経済問題

年金生活での医療費の増大、生活費の圧迫...健康な今はいいが、近い将来が不安。

どれも世間で言われていることであるが、高年齢の我々には現実の問題である。

健康について保健師さんから問診的な質問紙が配られ、それぞれの回答に対してうつ病・認知症・肥満・成人病などの傾向を話されたが、お互いに該当する事が多いだけに「気をつけなくては」の声が大きくなった。皆、まだ健康だからか体験での冗談も飛び出した。

～ を考えると、「高齢者の安心とは健康であることが第一。介護されないように、されても短期間であるように」と。即ち「介護予防」の重要認識が生まれた。

「そのための努力とは」の話題に変わり、実行例を話し合った。

食べ物、運動、他人との会話、一人暮らしの会話の難しさ、趣味の持ち方など色々飛び出したが、参考になることが多かった。

そして、自分たちは今後次のことを実行しようと決めた。そのことについて、続けられたかを、一年後またこの交流会に来て話し合おうと。

- ・ 自分に合った適度な運動
- ・ 腹八分目の食事
- ・ すすんで人と会話

最後に、リーダー、ファシリテーター、保健師の名トリオで、分科会のメンバーを意気投合させて頂いたご努力に感謝したい。交流会に参加してよかった。

浅田正雄



「明日くるかも？大地震！！」

大雪の降ったあいにくの天候でした。私が交流会に参加しようと思ったのは分科会テーマ「明日くるかも？大地震！！」に興味をもったからです。昨年の4月15日に三重県中部地震の発生で亀山市は震度5強の激しい揺れを経験しました。幸い被害は少なかったものの、ニュースで

よく聞く地震を我が身で実感したことから、地域の女性の視点から何か出来ることはないかと有志が集まり、平成19年11月、勇気と希望をもった女性との意味を込めて

<CEF>セフ Courage Espoir Femme を立ち上げ、防災活動として、防災マップ タウンウォッチングを始めました。交流会では、川口准教授の講演で地震の恐ろしさを改めて学ぶことができました。分科会は関心度の高いテーマでもあり、活発な意見交換となり大変参考になりました。地震に対して個人の意識の向上と行動が、自分自身を守る為でもあるし、また地域の安心・安全にもなっていくものだと思います。

山口淳子

